



# Through the Lens with Empathy: How to Tell Your Hope through Photography

カメラが映し出す希望とは – レジリエンスとしての写真の使用

<JSPS科研費JP20K20059関連イベント>

オーストラリア・アジア研究所・国際学部・国際教養学部 共催 **ワークショップ**

参加費  
無料

2024年**1月17日(水)** 4限 **15:45-17:30** 総持寺キャンパス A361

何世紀もの間、インドの根強いカースト制度は、ダリットと呼ばれる最下層に置かれる人々を容赦ない差別によって社会の片隅に追いやり、組織的に抑圧してきた。側溝や下水溝の掃除、死者の処理など、人間性を奪う仕事に従事させられているダリットたちは、いまなお人間としての尊厳を奪われることに耐えている。

スダーラク・オルヴェ氏の写真は、社会の無知がもたらす差別に苦しむ男性、女性、子供たちの生活を共感的に描写している。オルヴェ氏はこれらの写真を撮ることで、現状への疑問と正義への要求というレジリエンス（回復力）の行為に取り組んでいる。さらにオルヴェ氏はカメラを地域社会に手渡すことで、複数の課題に対する集団的な反応を引き起こし、希望と回復力の新たな波を先導する。

本ワークショップではオルヴェ氏から彼の写真家として、そしてディレクターとしての活動を聞き、過酷な環境の中にあっても消えない「尊厳」と「希望」について学ぶ。

**講師：スダーラク・オルヴェ氏**

(フォトジャーナリスト、Photography Promotion Trust創設者兼ディレクター)



インドのムンバイを拠点に活動する社会ドキュメンタリー写真家。全国紙のタイムズ・オブ・インドをはじめとするさまざまな主要メディアの写真部門で要職を歴任している。2016年にインド大統領からインドで4番目に最高位の文民賞であるパドマ・シュリ賞を授与された。

対象：学生・教職員・一般の方（要申込）

問  
合  
せ

追手門学院大学 オーストラリア・アジア研究所

TEL.072-641-9667  
cas@otemon.ac.jp

お申込はこちら



<https://ws.formzu.net/dist/S476560567/>



追手門学院大学